

小田原市立中央図書館自己評価表（令和4年度分）

評価点 5：優れている 4：やや優れている 3：概ね適正である 2：改善に向けた検討が必要である 1：早急な改善が必要である

評価項目	評価基準	評価点	評価の理由
施設コンセプトに基づく取組	多様なニーズに対応する本や情報の提供を行った	3	<p>■各部門別に担当者を設定するとともに、選書資料を館内に広く供覧することで広く選書に対する意見を反映した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に選書会議を開催し課題や方針の確認を行うとともに、利用者からのリクエストに対応することでニーズの反映に努めた。 <p>■郷土の歴史や文学に対するレファレンスについては多方面からのニーズに応えることができる一方、郷土の他分野や一般的なレファレンス対応については、十分な体制をとることができていない。</p>
	活発な読書活動を促す環境や事業の充実を図った	4	<p>■地域の知の拠点となる図書館として図書館利用者多く集まる魅力ある図書館づくりのため、様々なイベントを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画本コーナーでは季節や時事の話題をテーマにした資料を排架した。 ・大学生が薦める「推し本コーナー」を設け、取り組みをツイッターで配信する連携事業を行った。 ・特別イベントとして、小田原北条キッチンカー組合、神奈川トヨタ自動車株式会社、株式会社丸江＝おだわらSDGsパートナーとのコラボイベントの図書館おたのしみデイを開催した。 <p>■図書館と6つのネットワーク施設の司令塔としての役割を認識し、日々の業務に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各図書館等で生じる疑義や問い合わせなどに対して迅速な対応に努めている。 ・図書館、ネットワーク施設を結ぶオンラインシステムの不具合については、直接、現地に向かうなどの対応を行っている。 ・新規事業を実施する際は、現地に赴いて事業内容や操作等の説明を実施している。
	子ども読書活動の推進に向けた取組を図った	3	<p>■子どもの読書活動推進を目的とする「第三次小田原市子ども読書活動推進計画」を策定し、読書活動推進の方策をまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむなく中止した事業もあったが、図書館に興味を持ってもらい、利活用を推進するための取り組みとして、読み聞かせやワクワク図書館員、図書館子どもクラブ、調べ学習の基礎講座を開催した。
	地域資料の保存と活用に向けた取組を進めた	4	<p>■図書館所蔵 貴重資料の目録公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資料活用のため、「高橋健三関係資料」、「大島圭介関係文書」の目録を作成し、HPや窓口で公開し、市民への閲覧に供した。 <p>■地域資料の保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学資料75点の脱酸処理。 ・地域新聞のデジタル変換（マイクロフィルムからデジタルデータへ変換、33巻） ・歴史資料6点の修復。 ・資料専用保存箱6箱の作成。 <p>■地域資料のデジタル撮影</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おだわらデジタルミュージアム事業に図書館として参加し、所蔵資料（文学歴史資料、映像・音声・写真資料）約13,000点を対象としたデジタル撮影を行った。成果物は令和5年度4月以降HP・窓口で順次公開する。
	滞在型図書館としての環境向上に向けた取組を進めた	4	<p>■新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りつつ、利用者が快適に過ごせるような環境形成に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士が密集密接しないよう工夫し、閲覧席の増を行った。 ・座席の配置を工夫し、パソコンコーナーの席数の増を行った。 ・南側閲覧席にプランターを増やし、利用者がリラックスできる環境形成に努めた。 <p>■館内環境については、観葉植物を配置し癒しの空間を演出するとともに、屋外については植栽の環境と美観の維持に努めた。</p> <p>■利用者の安全と快適な環境づくりについては、令和4年度に防火シャッターの改修を実施した。</p>
職員の育成	図書館事業の理解促進と専門性向上に向けた取組を行った。	3	<p>■図書館員が司書講習を受講し司書資格を取得した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司書職員を含む図書館員が一堂に会して選書会議や業務検討・打合せなどを定期的に開催し、図書館員の資質・能力の向上に努めている。

小田原市立中央図書館自己評価表（令和4年度分）

評価点 5：優れている 4：やや優れている 3：概ね適正である 2：改善に向けた検討が必要である 1：早急な改善が必要である

評価項目	評価基準	評価点	評価の理由
カウンターサービス、利用者サービスに関する取組	カウンター業務をはじめとする利用者対応は適切であった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ■カウンターに直接寄せられる意見は、図書館運営に生かしている。 ・カウンターに寄せられる利用者からの意見、指摘を受けて、業務改善できることは早急な対応に努めている。 ・利用者からの意見と対応内容については供覧し、図書館職員で共有している。
	利用者ニーズの把握に努め、ニーズを反映に向けた取組を行った。	3	<ul style="list-style-type: none"> ■ご意見箱を設置し利用者ニーズの把握に努めている。 ・ご意見箱を設置し、利用者からの意見、指摘を基に、業務の改善を図っている。 ・ご意見箱からの意見、カウンターへの口頭での意見を参考に改善できることは、すぐに対応している。
	レファレンス機能の充実にに向けた取組を行った。	2	<ul style="list-style-type: none"> ■地域資料に関する利用者の疑問・要望に答えている。 ・レファレンス記録を作成し、内容をデータ化するなどして、図書館員で共有している。 ■一般的なレファレンス対応について、体制整備を図っていくことが必要と考えている。
	バリアフリーを意識した具体的な取組を実施した。	4	<ul style="list-style-type: none"> ■電子図書館事業を開始し、活字の拡大や音声読み上げに対応する資料が増加した。 ・電子図書館事業の開始により、多様化する図書館利用者の利便性を高め、市民等に対する図書サービスの拡大・向上を図るとともに、読書バリアフリー法に基づく視覚障がい者等の読書環境の向上に寄与した。
事業実施・情報発信	図書館ボランティアや関係団体との連携を図った	3	<ul style="list-style-type: none"> ■図書館ボランティアのかもめ図書館フレンズ、すずの会、ピーターパン、おはなしたんぼぼ、さざなみ会と連携を図っている。 ・ボランティアと協力し、定期的に読み聞かせを行っている。 ・コロナ禍で開催を見送っていた「かもめ名画座（映画会）」を合同で復活開催した。 ・ボランティアと図書館職員が合同で北側植栽の一斉草刈を実施した。
	多様な蔵書・資料を活用した事業を行った	4	<ul style="list-style-type: none"> ■地域資料コーナーにおいて、図書館の「宝もの」展を開催し、地域資料を展示・公開し、貴重資料を広く市民に紹介した。 ・夏休み期間中に「昭和のポスター〈小田原とスポーツ、観光、まつり〉」と題し、昭和期のポスター類を公開した。 ・電子図書館事業を開始し、電子書籍を活用した図書館利用者の利便性を高め、市民等に対する図書サービスの拡大・向上を図った。
	図書館事業の周知や情報発信に努めた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ■図書館事業の開催や読書週間などの時事にあわせ、様々な手段による情報発信を行った。 ・図書館事業の開催や参加者の募集については、広報やホームページ、こゆるぎ通信などを活用している。また、不定期ではあるが、ツイッターも活用し情報発信をしている。 ・小学生向けのおすすめ本のリストを4月（子どもの読書週間）（4月は低学年向け）、7月（夏休み期間）、10月（読書週間）に、中高生向けは7月（夏休み期間）、10月（読書週間）に、図書館及び図書施設で配布するほか、各学校を通じて学校図書館で配布している。 ■「地域資料通信」第15号の発行。 ・「図書館の「宝もの」」の開催案内及び令和4年度に新たに目録公開した高橋健三と大島圭介の資料群を紹介した。また、県内関係機関に配布する等して、広く周知に努めた。
小田原駅東口図書館との連携について	小田原駅東口図書館との円滑な連携を図るための取組を行った	3	<ul style="list-style-type: none"> ■東口図書館開館当初から定期的な情報交換を行っている。 ・図書館運営上の課題や改善点を議題とする打合せを行い、利用者の更なる利便性の向上に努めている。 ・閲覧席の利用延長などの要望や意見に対する対応について連携して取組を行った。
	小田原駅東口図書館との機能や特徴の違いを踏まえ、相互に補足する動きができた	3	<ul style="list-style-type: none"> ■中央図書館と東口図書館の機能向上を図るため、日ごろから担当者間での情報交換を行っている。 ・東口図書館の選書会議に参加し、中央図書館での選書の参考にした。
その他事項	施設について、効率的かつ効果的な維持管理ができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ■令和4年度には、事務室及び倉庫の資料整理を行い、資料管理の高効率化、閉架書庫の高効率な運用を図った。